令和７年度　第１回　大東市環境審議会　会議録

○　日　　時　　令和７年６月２７日（金）　１３：３０～１５：３０

○　場　　所　　大東市立市民会館４階　大会議室

○　出席委員　　花田会長、三ツ川副会長、岡﨑委員、髙橋委員、川島委員、
栗本委員、榊委員、東野委員、吉村委員、岩井田委員、城戸委員、
※委員名簿掲載順

○　欠席委員　　中原委員、濱崎委員、谷口委員、阪江委員
※委員名簿掲載順

○　事 務 局　　市民生活部　部長　竹田
総括次長　藤原（兼務）
環境室　室長　藤原（兼務）
課長　吉原
課長補佐　戸田、松田
上席主査　道木、堀田
課員　角江　田上

○　傍 聴 者　　無し

○　当日次第　　１　開会
２　諮問書交付
１）第３期大東市環境基本計画の策定
２）第６期大東市一般廃棄物処理基本計画の策定
３　議事
議題１：第３期大東市環境基本計画の策定について
議題２：第６期大東市一般廃棄物処理基本計画の策定について
議題３：その他
４　閉会

○　配布資料　　１　会議次第
２　資料一覧
３　委員名簿
４　配席図
５　【資料１－１】第３期大東市環境基本計画骨子案
【資料１－２】第３期大東市環境基本計画の策定について
【資料１－３】市民・事業者アンケート案
【資料１－４】中学生アンケート調査結果
６　【資料２】第６期大東市一般廃棄物処理基本計画の策定

１　開会

２　諮問書交付

３　議事

議題１：第３期大東市環境基本計画の策定について

<意見等>

事務局	【資料１－２】のうち、第２期大東市環境基本計画の進捗評価結果について説明。
委員	河川清掃ボートで河川浮遊ごみを回収しているということであるが、回収日はどのように決定しているのか。 また、昨年度の恩智川クリーン・リバープロジェクトは２月開催だが、開催時期はどのように決定しているのか。時期によりごみ量や参加者が変わるのではないか。
事務局	河川清掃については、ごみが比較的多く発生する時期のうち、ボートを運航できる河川水位の日が月に１、２回程度あるので、その日に合わせている。 昨年度の恩智川クリーン・リバープロジェクトは２月に開催したが、例年は秋に開催している。昨年度は市民まつりと時期が被ったので、２月開催に変更した。委員ご指摘のとおり、２月は気温が低く、参加人数が少なかった。次回は改善したい。
委員	資料１７ページに、水質についての環境基準が未達成であったと記載がある。大東市では、生活排水を減らすために、令和５年１２月に植田油脂株式会社と協定を締結し、廃食用油を回収している。ごみ収集カレンダー６ページに廃食用油の回収ボックスについて記載があるが、広報誌にも写真入りで掲載するといいのではないか。 資料１９ページの一番下に集団回収についての記載がある。中間見直し時から登録団体数が増加していないということであるが、集団回収が未実施の地域を把握できていないと思うので、その把握と、実施団体の登録促進をしてほしい。回収箇所については、公民館を利用した回収や、地域を利用した新たな回収事業を実施してはどうか。集団回収の奨励金についても、今後も継続してほしい。 資料３０ページの③について、「環境教育の出前講座における、時代に応じたメニューの追加、内容の充実、主催者の場合は市の主催に限定しない、様々なイベントを実施する。副読本を作成し啓発を実施する。」という文言を追加してほしい。

委員	植田油脂の廃食用油の回収活動について、広報誌に掲載することは可能か。
事務局	紙面スペースの都合があるが、できる限り掲載していきたい。その他にも、企業の環境活動はホームページ等で積極的に情報発信したい。
委員	集団回収についてはどうか。
事務局	集団回収は、現在１２０団体の登録がある。登録団体数は横ばいだが、デジタル化による紙離れで、回収量は右肩下がりの傾向になっている。引き続き奨励金で活動を支援していきたい。
委員	その他の文言追加等については、事務局で検討してほしい。
事務局	文言については見直していきたい。 なお、副読本については、既に学校に配布したところである。今後も、小中学校には様々な形で環境教育を実施したい。
委員	副読本はとても大切な資料である。教科書は全国・世界的な内容について考えるためのものであり、副読本はその地域で生活するうえでの自分事として考えるためのものである。
委員	各プロジェクトについて、どのような基準で○△等の進捗評価をしているのか。
事務局	各プロジェクトの進捗評価については４段階の自己評価としており、◎は順調、○はおおむね順調、△はあまりできていない、×はできていないとしている。明確な線引き基準はなく、実施した感覚としてどの程度できたかの自己評価としている。
委員	目標を立てているのであれば、目標の何％達成すれば「○」というような、基準を設けたほうがいいのではないか。
事務局	次回の進捗評価では分かり易い評価基準を設けたいと思う。

事務局	【資料１－１】及び【資料１－２】について説明。
委員	資料１－２は計画策定のためのベースになる情報を収集したものであり、次期計画にそのまま盛り込む部分もあると思う。３ページにある３つの環境危機はどこから引用したのか。
事務局	環境省の白書を基に作成している。
委員	環境省の白書にある「汚染」という意味は、地方自治体の環境基本計画にふさわしいのか。資料７～９ページでは、気候変動、生物多様性、資源循環の３つのテーマに分けており、これらとの整合性が取れていない。このまま次期計画に載せるのであれば、もう一度検討してほしい。 資料１－１で、第２章は現状を踏まえてこれからの計画を考えていくという内容であるが、章立てをするほどの必要があるのか。現状を整理した結果は載せてもいいが、章立てをすると読み疲れてしまうのではないか。計画の後ろに資料編として掲載すれば、情報としてわかりやすい。 第３章の基本目標についても、３と４の順番を変え、気候変動、生物多様性、循環として、最後に環境汚染とした方がわかりやすい。 また、基本目標５の「地域力が支えるだいとうの環境」が、ＳＤＧｓのウェディングケーキモデルのように、１から４の各基本目標を横串でさして連携していくことが分かるような見せ方をしてほしい。
事務局	３つの環境危機について、国際的な背景として環境省の物をそのまま引用したが、地方自治体に落とし込めるように、文言等の整合性を図っていきたい。 第２章の章立てについて、アンケートやワークショップで若年層の意見を調査し、それを本編に取り入れたかったので、このような構成としている。ご指摘のように、読むのが苦になるかと思われるので、調査結果を取りまとめていく中でボリュームを調整していく。 基本目標の順序について、３つの環境危機に合わせた順番としていたが、意見を踏まえて検討していきたい また、基本目標の扱いについては紙面の都合でこのような図となっているが、認識としては委員と同じであるので、見せ方を工夫したい。
委員	子ども環境基本計画策定委員について、募集は閉め切っているのか。また、何名集まったのか。
事務局	募集は既に閉め切っており、中高生１４名から応募があった。
委員	何校から応募があったのか。
事務局	中学校が２校、高校が１校である。
委員	もう少し複数の学校から応募があるとよかったとは思うが、やってみて面白かったという声が広がれば、環境施策以外にも、市全体の事業への参画に繋がっていくと思う。

委員	３つの環境危機について、環境省の環境白書では、水俣病のこともあり汚染という言葉を使用しているが、大東市には馴染まない。プラごみ汚染や、川が汚いという意味の文言を使用する方がいい。 それに関連して、川ごみ対策は中学生アンケートでも問題意識が高かったという結果であったが、これは資料１－１の基本目標においてはどこに入るのか。 資料１－２の１７ページで、グリーン調達総数が減っている。調達総数ではなく、グリーン調達総数の削減を目標としているのか。 また、紙類におけるグリーン調達率は９５％だが、役務は２１％と低い。役務について、大東市が求めている基準を満たす業者はいてるのか。
事務局	３つの環境危機については、ご指摘のとおり、市民や事業者に遠い話とならないよう、書き方を工夫する。 川ごみ対策については、基本目標３に入る。
事務局	グリーン調達総数ではなく、調達総数自体を減らしていくことを目標としている。 役務については、環境室のグリーン調達方針と契約課の契約方針の計画策定時期ずれてしまっており、今回はグリーン調達非適合の事業者と契約してしまっていた。今後は、調整改善していきたい。
委員	資料１－２の２２ページで、アドプトプログラムの登録団体数は令和５年度までは順調に増加しているが、令和６年度は減少している。何か要因を把握しているか。
事務局	別部署の所管であるので、要因については把握していない。
委員	役務のグリーン調達については、契約締結時点でのグリーン調達方針に基づいて、集計したらいいのではないか。
事務局	そのようにしたいと思う。
委員	グリーン調達適合品ではないが、これを購入したい場合もある。もちろん調達率１００％が望ましいが、実際には無理なこともあるので、１００％になったらいいなという心構えでも問題ないと考える。
委員	資料１－２の１８ページで、持続可能な低炭素社会への転換についての記載がある。最近はごみ収集車の電気自動車やハイブリッド車への転換が話題となっているが、大東市として導入の予定はあるのか。
事務局	大東市のごみ収集車両はパッカー車がメインである。電気自動車やハイブリッド車はＣＯ２削減効果があることを認識しているが、現状では導入するかどうかの議論はできていない。
委員	大阪市はハイブリッド車や天然ガス車のパッカー車を所有して車体の色を変えて啓発につなげていたが、導入はあまり進んでいないようである。良し悪しの議論は難しいところであるが、様々な車種を検討してもらいたい。

委員	資料１－２の２１ページについて、だいとうクリーンウォークは環境室の一番大きな事業であったのに、なぜ事業完了となってしまったのか。 恩智川クリーン・リバープロジェクトの参加者数についても、増減を繰り返している。市民に認知されているのか、ここ何年間か疑問に感じている。やり方を変えていく必要があるのではないか。 竹細工作り教室の目標としている延べ５０人とは、何回か開催して、トータルの参加者が５０人ということなのか。目標とやっていることが一致していないように感じる。 これらのような実績を公表しても、大東市はよくやっているとは思ってもらえない。 出前講座をこれから拡充していくのはいいと思うが、小中学校に積極的に呼びかけていかないと、待っていても何にもならない。みどり会としても協力するので、環境室としても積極的に学校に働きかけてほしい。
事務局	だいとうクリーンウォークについては、環境月間である６月に、みどり課主催の花と緑のまつりと合同で開催していたが、コロナ禍の影響で数年間開催を見合わせていたところ、だいとうクリーンウォーク自体への予算措置が難しくなってしまったことが原因である。次期環境基本計画の実行のために、啓発イベントは構築していきたいと考えているので、財政部局にも働きかけていきたい。 恩智川クリーン・リバープロジェクトの参加者については、昨年は２月開催だったので人が少なかった。次回からは改善していきたい。 竹細工作り教室の目標については、第２期環境基本計画の中間見直し時点から数えて延べ５０人を目指している。 出前講座についてはご指摘のとおりと考えている。令和６年度の子ども環境教室の開催回数が増えているのは、各学校に働きかけたからである。市民会館では工作教室も開催した。課外活動としても開催を増やしていきたい。今後も、魅力ある講座展開を考えていきたい。
委員	各施策の目標について、次期計画では見直すのか。
事務局	次期計画では、新たに施策展開や指標を設定して、審議会に諮っていく予定である。
委員	どうすれば目標到達できるのかということを検討してほしい。 予算で苦労しているかと思うが、企業と連携している事業と連携して、環境分野についても広めていくというのが、お金をかけずにできる方法と思う。予算措置が難しくても、うまく工夫してほしい。

委員	補足であるが、恩智川クリーン・リバープロジェクトについて、２月開催で参加者が少なかったという意見があるが、それなりの人が参加して活動していた。参加団体がごみの組成調査をしたり、水質の透明度を調査して、透明度が高いということが目に見えて分かった。今後も続けていきたい。 ただ、小中学生の参加がなかった。一緒にごみ拾いをできれば、もっと活動が広がっていくと思う。
委員	住道駅前デッキで開催すると、多くの人に見てもらうことができ、それが力になる。 大阪産業大学の教授がＧＰＳで河川浮遊ごみについて調査をしている。大学と連携して、そういった報告もしてもらえるといいと思う。
事務局	恩智川クリーン・リバープロジェクトについては、川のイベントであることが分かるような企画内容で開催していきたい。 また、清掃船も活用し、子どもにごみを回収している姿を見せていきたい。
委員	東大阪市では、出前講座の内容が充実している。また、花園ラグビー場で環境フェアを開催しており、小中学生の参加者が多い。 大東市でも、末広公園で環境フェアを開催してはどうか。
委員	中学生アンケートの結果では、大東市の取組みは知っているが、参加したことはないという意見がある。次期計画は、行動につながる計画になったらいいと思う。 環境フェアの開催地についても、事務局で検討してほしい。

事務局	【資料１－３】について説明。
委員	事業者アンケートで、基本情報の回答を最後にしたのはいいと思う 市民アンケートの７から１０ページに重点プロジェクトについての設問があるが、設問数が多いので、重点プロジェクトであることの意識が続かない。７ページに、「以下の（１）から（３）の重点プロジェクトにお答えください。」としてはどうか。 また、１ページ目の２次元コードを読み込めば、アンケートが送られていない人も回答できるのか。
事務局	文言については、再度検討したい。 ２次元コードを読み込めば、アンケートが送られていない人も回答できるようになっている。ホームページに掲載予定である。
委員	他にはどのような媒体に掲載予定か。
事務局	フェイスブックやラインといったSNSに掲載予定である。
委員	２次元コードからどれだけ回答が来たか、今後のアンケートでも参考としてほしい。 ２次元コードでは、誰でも、同じ人が何回でも、市民でない人も回答できてしまうが、対策は考えているのか。
事務局	現時点では、回答と回答者の紐づけはできていないので、対策については検討する。
委員	何らかの対策は必要と思う。広くアンケート調査をやりたいが、課題もある。
委員	現行計画策定時にもアンケート調査をやったことがあると思うが、どのような結果であったのか。以前の結果と今回の結果の違いも盛り込んだらいいと思う。
事務局	以前のアンケート調査を踏襲している設問もあるので、今回の結果と比較したい。
委員	アンケートの発送はいつを予定しているのか。
事務局	本審議会の意見を反映して内容を修正し、７月中旬の発送を予定している。

議題２：第６期大東市一般廃棄物処理基本計画の策定について

＜意見等＞

事務局	【資料２】について説明。
委員	裏面には、ごみ組成調査の結果が記載されている。令和６年度は、令和元年と比較してごみ排出量が減っているので、それが資源化可能物の割合に影響していると考えられるが、それでも３分の１以上が資源化可能物であることは残念である。
委員	資源化可能物については、汚れたプラスチック類や紙類もふくまれているのか。資源化できるきれいな状態のものしか含まれていないのか。
事務局	ご指摘のとおり、ごみの状態で分けて調査することがポイントかとは思うが、今回の調査で一律に資源化可能物に含めている。今後の課題としたい
委員	ごみの再資源化の観点では、次回からそのように調査してほしい。同じエリアで同じように調査しても、家族構成が変わった影響もあるのではないか。
委員	プラスチック製品をどのように処理していくかは、国全体で流れがある。これから考えていかないといけない。

４　閉会

以上